
神様的好奇心は人も殺す

all

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様的好奇心は人をも殺す

【NZコード】

N8263Y

【作者名】

a11

【あらすじ】

神様的好奇心によつて殺されたも同然の高校2年生の神坂望。責任を感じた神は望を異世界に転生させた。

そう 望が四六時中していた「妄想」を現実にできる世界に。

プロローグ -異世界への転生-（前書き）

始めまして、小説始めました。

このような執筆作業は初めてなので誤字や日本語としておかしい部分が多くあるやもしれませんが生暖かい日で流すように読んでいただければ幸いです。

プロローグ -異世界への転生-

彼、かみさかのそみ神坂望はいつものように歩道を歩き交差点で止まり、信号が青になつたらまた歩き出しつゝ学校へ向かつ。

朝の7時半。朝日を体に浴びながらいつもの通り同じ道を歩きいつものように学校につくはずだった。

事は学校の裏にある信号のない小さな交差点で起つた。

「それ」まるで十字路を渡る望が見えていないかのようなスピードでこじりて突っ込んだ。

横によけでは間に合わないと「判断」した望は四六時中やつていた妄想どおりに体を動かす。

ボンネットに手を付き、体を浮かせ、背中に背負つていたカバンをフロントガラスに打ち付けるようにしてダメージを殺す。

（妄想成功！）
ガツという音が響き、ボンネットの上に体を預け　　「それ」がスピードを落とした。

「それ」いきなりブレーキが効いたかのよしスピーディーが落ちた。慣性の法則により打ち出され大通りにてします。

次の瞬間、トラクションの音が鳴り響きその中に鈍い音が混じつていた…。

これが神坂望が異世界に転生することとなつた世界で最後の出来事である。

この世界の神様はあまり人間に手を出すことはなかつた。

というよりもともと興味があんまりなかつた。

しかし世界に常識があつて非常識があるのなら、しんせかい神世界でも非常識と呼ばれる神はあるものである。

そしてその神の世界での非常識と呼ばれる神は望の妄想を知り、面白がり、試したのだ。

人間とはどこまで「準備してある物事」に対処できるのかと。

つまり、望がいつも通学路でやつている「交通事故の対処法」という現実味のある妄想を現実に引き起こしたのだ。

運転手から望の姿が見えなかつたのは神のいたずらであり、それが結果一人の人間が逝つた。

神は責任を感じた。神のいたずらは一人の人間の、いやその周りの人間のも含めて全員の未来を狂わせたのだ。

家族友人はもちろんのこと、クラスメイトや担任の先生等は十分に周りの人間に該当するだろう。

望は転生者に、そして神は祈った。

そしてその神は世界に手出しすることを自ら禁じそれ以降世界をのぞこうともしなかった。

その神が上位神によつて「天罰」を受けたのはどうでもよく、知らなくてもいい現実。神世界

重要なのはこれにより望という転生者が生まれ、異世界で生きていくことになったということ。

そして、望は異世界で一度目の人生を生きるということである。

神がその異世界での生活を見守っていたのも彼にとつては知らない、知らなくていい現実。

プロローグ -異世界への転生-（後書き）

転生物を多く読み流されるように書き始めてしまいました。
投稿は不定期です。

神坂望改めエリック・シルフィールド三歳（前書き）

異世界は基本、絶対基準が私の妄想であるためこの筆者が生きている世界と発展の仕方が違うのは「了承ください」。

つまり、世界と異世界では思考の仕方が違うため基本となる常識が異なっています。

極端な例にするなら「人間と精霊では考え方が違う」みたいなものと同じです。

攻撃方法、つまり世界^{現実}で「妄想」した魔法での戦い方と異世界の魔法での戦い方は違う。

さらには食生活で食べ物を腐らせる（醱酵）ということを考え付かなくてもなんら不思議ではないということです。

結論として、この小説^{もじき}の異世界の人間は「こちらの常識では計れない」ということです。

さらに言うなら登場人物は人間ではない、もしくは人間に似た動物と考えていただいても結構です。

なのでこのことを踏まえてこのページでの画面スクロールをお願いします。

それでは転生というアドバンテージを持つた精神年齢高校生から始まる「妄想が日常」の神坂望の日常をお楽しみください。

神坂望改めエリック・シルフィールド三歳

転生者

転生の言葉の意味としては、前世の知識を持つたままもう一度人に生まれること。これには動物を含めて転生する説もある。

ここでは、転生者として人間に生まれることを指すことにする。

そして、転生者はそれだけでアドバンテージになることが多い。

転生先が異世界であつたり、いま現在の世代より古ければ古いほど技術や人の精神や考え方が発展していないためである。

未来に生まれたつてその未来の人たちと常識が違うのだから新しい発見が可能かもしれない。

もう一つ、転生者にとって決定的なアドバンテージがある。

なにせ生命が生まれた瞬間から自我の確立ができるのだから…。

三歳になつた。

昨日誕生日だった。

特に何をするわけでもなくただ生きている。

要するに退屈なのだ。

いや少し違うが、興味をそそるものがないのだ。

いやこれも少し違う。

興味あるものに触らせてもられないのだ。……うんじつくりきた。

毎日自分の部屋から外を見るだけ。

自分の家族が住んでいるところはたぶん高級住宅地。

家に面している通路は歩いている人たちは少なく逆に馬車とかが多
かった。

大通りが少し見える。人とか露天とか、沢山いて沢山あつた。

人ごみは前世では嫌いだったけど今じゃ地下鉄の混み具合が懐かし
い。

うん、暇だ。

成熟したとはいえない、未熟な精神だがこれは常人だと発狂レベルですよ。

目の前に！体の中に！「魔法」や「魔力」と呼ばれる未知なる力が眠っているというのになーんで我慢せんなならんのか！

自分は生まれる前から意識はあった。今でも記憶はある。体の中に氣味の悪い力が眠つてたのにも気づいた。

このことから自分に何らかの力があり、異世界に転生したのでは？と仮説を立てた。結果その通りだつたわけだが…。

まあ、^{魔力}その力のおかげか生まれるまではまるで油の浮いた砂糖たつぶりサイダーのプールに入つているかのような気持ち悪さだつた。

その上、体は思うように動かないしただじつとしてるだけ。

いつ出産されるかもわからない、そんな状態でずっと我慢していた私。

あれは地獄だ…。いや地獄だつた…か。

毎回地獄を思い出してどうにかこの退屈と比較して「まだましだ」と思いながらも、さすがに限界だ。

その出来事が誕生日パーティーだ。
きつかけ

誕生日パーティーを両親が親戚や貴族を呼び祝ってくれたのだが、これがこれがまたまた面倒だった。

なんで三歳児が貴族の面々に挨拶回りせにゃならんのだ!-ともう内心何度叫んだことか…。

自分の子供を何かしらの分野で認めてくれているならセリフと魔法教えてくれよ…。

周りに同年代の子供はいないし完全大人だけの世界。

どうやら貴族たちへのサプライズみたいなものだつたらしい。

いや、こじはどう考えたつて子供の成長を促すために同年代の子供に会わせるべきだつ…。

言葉とかさ、まだぜんぜん完璧に覚えているわけでもないし発音も舌足らずだし、会話こなさなきや覚えらんないよ…。

どつか違つというか抜けていてずれているそんな自分の父親ダニエル・シルフィールドと母親サラ・シルフィールド。

両方結構めんどくさい性格をしている。それでいて結構な貴族である。

が、なんといふか人を驚かせる事に人生かけているような人だ。
善人

相手は本当に誰でもいい。騎士団長を相手にしたこともあるのだ。

時たまにある人物からサプライズの依頼が來ることもあるらしい。本業あるそかにしてない?これも本業のうち?

自分が巻き込まれなければドッキリカメラ見てこるようなも

のだった。

しかし、巻き込まれるとタチが悪いじゃない。

とこつか三歳児をサプライズの相手にするといつその精神が知りたいよ。

さらに、元いた世界世界に魔法があつて、いたる世界異世界では魔法がある。

この違いだけでドッキリの部分がどれだけ前の世界と違うかわかつてくれると思つ。

ああ、自分も早く魔法を使いたい……。

三歳になつたんだから許してくれないだらうか？

ナラニシテアリ。

神坂望改めヒロック・シリルフィールド三歳（後書き）

名前が思いつかない。

名前だけに15分かかってしました…難しい。

精神は肉体の影響を受けると某吸血鬼Kさんが言っていたのを思い出しました。

言動は肉体に影響を受けていきます。でもやっぱ根っここの部分は女性で。

いけたらしいなあ。

台詞の掛け合いとかもぶつけ本番。
読めるようなもの書けたらしいなあ。

魔法、魔力の勉強法？（前書き）

サブタイトルも難しい。

魔法、魔力の勉強法？

基本と応用

物事の「基本」といひのは土台部分であり、その土台を固めていく必要がある。

建築物で例にするなら地中に埋めた基礎部分だひつ。

応用は基本の上に積み上げる「モノ」であり、建築物の見た目部分にあたる。

なら建造物の間取り等の中身は？

経験である。

「親父！おれにまほうをおしえてくれ！」

「・・・あー、魔力の使い方なら教えてやる！」

「それってなにかちがいがあるの？」

「さすがにまだわからんよな」

わかっていますけどね。

うん三歳なんだから」わぐらがたぶんベスト。

違いが分かつたらさすがにおかしいだろ？」

自分は両親が自分を転生者ということを知らないままでいてほしい。

特に理由はないし本当の息子として生まれてくる魂を押しのけた自分に罪悪感を感じたことはないといつたら嘘になるけど面倒事なんて極力避けたい。

破天荒な両親のことだからたぶんないとは思つけど放りだされる可能性が無い訳ではない。

ん？日本語が微妙におかしい・・・か？

日本語の話し相手がいないからいつも自問自答しかしていない。

独り言が最近寂しくなってきた。

ま、
それはそれとして
閑話休題

魔法に興味を持ち出すのは三歳からが多いらしい。

好奇心が高い時期だからだらうか。

いやーどうでもいいいやーととりあえずテンション上がってキター！

「ん、よし。それじゃ始めよう。といつてもどうしたもんか。」

「え？」

「…まあいいか。とりあえず俺の魔力を流し込んでみるからそれを外にはじき出しちゃう」

「やとこだせばいいの? わかつた。」

そうこうと親父は手をつかんできて いきなり寒気がしてきた。
自分が別の何か、自分じゃないものに侵されてこくよくなそんな感覚。

自分が自分じゃなくなる いやだ!

その時、バチーン! と空気が震えて親父が数歩よろけた。

親父が青い顔で口に向いてる。

あーやばいかも? なんかやつちやつた?

「…よ、よし。基本ができるなすござれ。」

いや、今の基本が出来てたつて顔じゃなかつたよ?

今は仮面がぶつてるのか平常に見えるけどあの顔は…おかしこよ。
ボーカーフェイス

「うさ。ちよつと父ちゃんは仕事があるからなまた後でな」

呼び止めるまもなく部屋を出て行った。

うん、逃げられた。

いや、逃げてくれてよかつたかも。考えをちゅうと纏めよ！」

魔力の操作方法の基本は出来ている。終了。…じゃなくて魔力量が多かつたのか魔力の使い方が上手だったとかそんなところだらうか。

前者はどうやって調べればいいのかわからん。自分しか基準がないからなあ。

後者は後者でまたわからん。どれだけ滑らかに動かせるとかそんな感じなのかな？

毎日やること本當になくて魔力に慣れる」とぱつかりやつてたからそれが原因かな？

あとは子供ながらの成長力。高校一年生 大人の精神と子供の本能力なんじやそりや で成長が著しいとかか？

まあなんにしても、魔法に対して転生者としてのアドバンテージが出たところか。

転生者はやっぱリチートに入る域にあると思つんだ。うん。

三年間魔法の制御だけしかやつてないんだから当然つちや当然なのかも。

ほかにもこの世界、技術発展していないしお金に困るとはないとは思うけど、技術見せ付けて必要以上に田立つなんひとつ、したくないしなあ。

絶対妄想力豊かなどいじやの馬鹿共に改良されてしまつと思ひ。

んで戦争と。自分の発想が戦争に使われるなんてそんな後味悪いことしたくないしなあ。

自衛のために使ひやりますナジね。

んじゃ親父どのの反応を待つとしますか。

20

…いまさら不安になつてしまひやつた。

氣づくわけないこと思つてださりやつぱつ少し不^{転生}なるなあ。

魔法、魔力の勉強法？（後書き）

主人公の特別は基本、あの世界での妄想とこの異世界に転生したことです。

もちろん知識もですが。

基本の上には応用もありますけどね？

投稿時間は何時にしたらいいんでしょうか。
とりあえずまた19時にしておきました。

投稿は一週間に一回出来れば良いほうだと思っています。
それでは次話で

父親の反応は家庭教師と専属メイド（前書き）

人によつては超大作のある生き物を思い出すかもしれません。
そのあたりは「了承を

父親の反応は家庭教師と専属メイド

能ある鷹は爪を隠す

狩をする鷹が爪を出していたら獲物に見透かされることの意味。これを実行するには世界の常識と自分の常識を重ね合わせていつでも自制をしなければいけない。

ではまだまだ未熟な精神である私はいつまで自重することが出来るのだろうか。
転生者

父が逃げた次の日

「はじめましてエリック様。私は魔法の家庭教師として呼ばれましたユアンです。どうぞよろしく」

「はじめましてエリック様。私はエリック様の専属メイドとなりましたアンナ・フリーエルです。これからよろしくお願ひします」

父よ、私はあなたの反応を予測し切れなかつたようです。予想外デス。

家庭教師はうれしいんだけど……座学を三歳児からやらせるつもりか。

私は能力的問題ないと思つけど……自分の時三歳児つて勉強したつけ？

……天才児として祭り上げられるのはめんどくさと自重したほうが良いね。

高校一年

あと専属メイドか。

いつわはちよつど良いかも。

でも冷静に考えたら何で今？魔法を勉強するから？

…あ～道徳みたいなものか。

つまり私の父親は道を踏み外さなことより心の鍛錬もしつゝて画
策したわけだ。

やつこつ心遣いはありがたい。

でもメイドなんてこの家で見たことなかつたんだけど…。

専属メイドアンナさんの場合

「では、ヒリック様何なりとお申し付けください」

まさにメイド…つていうのが第一印象だつたアンナさん。

艶やかな茶色の髪、キリッとした規則に厳しそうな目、出るといじ出
てはいないけどスレンダーと詰つていい体。

その直立姿勢で待機している姿はメイドさんそのもの。

似た目年齢二十代後半ぐらいかな?とか考えたらなんか寒気がした。

……あまり考えないようにしてよ。

「えと、さつそくしつもんなんだけばメイドさんをこの家でこちども見たことないんだけど」

「それは当たり前でござります。メイドは主人の前に姿を見せずに仕事をする。その事を主人への礼儀としていますから」

え?

「それじゃあこの家にはいまどねぐらじのメイドさんがいるの?」

「ダニエル様の専属を含めますと4人でしょうか。料理人を含めればもう少し増えますが」

つまり、もともとフリーは三人いて自分はその三人にまったく気がかなかつたわけだ。

…なんか怖!

メイドさん侮りがたし。アキバの路上メイドとかとはやつぱりしがうね。

貴族なのに従者がないのはおかしいとは思つてたけど、そんな理由だったんだ。

にしても自分専用か?なんかもつたいないね。自分の前世からの価値観はいつたん崩壊させたほうが良いかも。

でもこれでメイドが立つた。両親とも忙しきじれを頼むのは躊躇してたけど。

「おっと、子供らしく子供らしく」と。

「せんべくって自分だけっていみだよね？」

「はい。私はエリック・シルフィールド様の専属メイドです」

「それじゃあ、親に内緒にしてほしいことがあってそれを言わないでといったら？」

「エリック様に危険がなければもちろんそれに従います。」

「せりたいに？」

「絶対で！」
「運命と死の神ルナ様に誓つて。」

「それじゃあやりたいことがあるんだ。」

家庭教師コアンの場合

「では改めまして、このたびエリック様の家庭教師として呼ばれましたコアンです。よろしくお願いします」

「よろしくおねがいします」

「…ちちは一四〇代後半のオジサン…はちょっと失礼かもしれない。でもそれぐらいしか浮かばない。

髪は金色でちよつと派手。顔は特徴がないね。服装も魔法に関わっている人には見えないし…特徴のない四〇代か。

うん、一般人の四〇代のオッサンにしか見えない！あれ？さつきより印象悪くなつてないか？まあいいや。

「まほづのべんきょうつて何をするんですか？」

「はい。ダニエル様から多少駆け足でもよいので魔法の基礎を教えるように言われましたので…」

田の前にちよつと分厚い本が2冊ほど置かれた。

つてことはやっぱり座学ですか。

私って三歳児だよね？

あれ？もしかして文字読めるつて思われてる？

「あの、まだ文字おぼえてないんですけど…」

まあそなりますよね！？

「…………」

「…それではまず文字から覚えましょつか。最低限、日常生活に支障がない程度になつたら魔法を勉強するといふことで

「すみません親父が無茶を… よりしくお願ひします」

文字は居心地の悪さと魔法への好奇心から一十日程度で覚える」と
が出来た。けど…

先生が顔を青くしました。またやつちやつたよ…。

これからは七日ご一回のロー テー ションで魔法の勉強をするとか。

道徳の勉強のペースに合わせた結果らしい。

前も悪もまだ判断つかない子供のうちに大きな力を持たせるのは危
険だと判断したからだと聞かしてくれた。

普通、二歳 私に聞かせても意味が無いと思つんだけど。

後、先生は家庭教師を専門でやつているわけじゃないらしい。

だけど魔法そのものに携わる事を仕事にしているのだとか。

そのまた会えるときを少しば楽しみにしてこよ。

父親の反応は家庭教師と専属メイド（後書き）

台詞の時にエリックが父親を呼ぶときに「親父」になるのは男言葉を少し間違つて覚えているから。

とか無駄設定考えるのは結構好きだつたり。

母親は父親より忙しいという設定です。

初めてのお氣に入りがありました。思わず小さくガツッポーズ。

報告活動で書いたミス修正

これからは七日に一回のロー テー シヨンで魔法の勉強をするとか。

本職が始まつたらし。

なんの職業かは教えてくれなかつた。

魔法を勉強し続けてればまたあえるらし。

そのまた会えるときを少しほは楽しみにしていよ。

これからは七日に一回のロー テー シヨンで魔法の勉強をするとか。

道徳の勉強のペースに合わせた結果らし。

前も悪もまだ判断つかない子供のうちに大きな力を持たせるのは危険だと判断したからだと聞かてくれた。

普通、三歳私に聞かせても意味が無いと思つんだけど。

後、先生は家庭教師を専門でやつてゐるわけじゃないらしい。

だけど魔法そのものに携わる事を仕事にしてゐるのだとか。

そのまた会えることを少しほは楽しみにしていよ。

専属メイドと家庭教師を得た五年後（前書き）

食べ物に関してです。

悩んだ末主人公は見た田ではなく味で食べ物の呼称を判断しています。

心中では似たような味をした食べ物を前世の呼称でよんでいます。なので台詞の中にこの世界にはない固有名詞が出てくると思います。その場合基本、後書きにて説明させていただきます。

日本人
望が一応満足するぐらいには食生活は発達しています。

専属メイドと家庭教師を得た五年後

重力

万有引力とも言い、物体の重さを作り出す原因。

人間の体はこの重力という刺激によって体が作られていく
いや、重力に耐えられるだけの体を人間は作っていく。

しかし、骨や筋肉は重力という刺激があるからこそ育つていく。
では無重力状態ではどうなるのか。

宇宙飛行士は無重力である宇宙に出ると必ず運動を欠かさないとい
う。

その理由は、常に重力による刺激がないため常に骨や筋肉が劣化し
てしまうから。

正確には人体の自己再生能力が低下してしまつのだ。

人体には体の組織を壊す細胞と再生する細胞がある。

この再生する細胞の能力が低下して破壊と再生のバランスが崩れ人
体が常に劣化してしまつ。

では逆に重力が強ければどうなるか。

骨や筋肉への刺激が強まり、田舎の何気ない運動でもそれなりの
筋肉の発達が促されるだろう。

追加

しかし、あるステータスは高確率で男性平均以下になるだろ。

「万物にその身を与える重力の意思よ、その御身の息吹 わが身に纏わせ我が意に従え。」

自分の体が少し軽くなつた。

「……え？」

エリック・シルフィールド八歳。

今日が誕生日。

まるで神様がプレゼントを与えたように今田一発目、重力魔法が発動できた。

「なんか達成感がない……けどまあいや出来たんだし」

後は、重力系の魔方陣と刻印を勉強して完璧だ。

「上位三原則魔法 重力系」と背表紙に書かれた本を閉じ、本棚にちゃんと戻す。

「五年か、結構時間かかっちゃったかな？」
八歳

「これで特別な人だけ使えるといつ無属性魔法以外は使えた。

そう、この世界に勉強するものとしてある魔術は ん？
少し違うか、この世界で一般人に「知られている」魔術は使えた、
だ。

後は、自分の魔術を創っていくしかない。

すでに構想はあるし。（転生前の世界はアースと呼ぶ）とした。
アースでの妄想 地球

ふふふ、私の妄想は尽きる」とはない。例え神が敵として攻撃して
きたとしても、
私の世界に傷一つつけられる事と思つた！

ふう、落ち着け。

でもこれって遊びが勉強になつてゐるような。

よく上学系の兄さんが「勉強は遊びみたいなもの」とか言ってたけ
ど今ならその気持ち分かるかもしけない。

……あーちょっとと思い出したら田から涙が出てきちゃつた。

思い出し泣きつてあるよね？

別れ、と言えば家庭教師として来ていたコアンさんともだ。

契約としては基本魔術「四原則魔法」ができるまで、だつたし。

これ以上顔を青くされたくないのでコアンさんは時間の面で、ダニエル父さんにはお金の面で申し訳ないけど五歳ぐらいまで付き合つてもらつた。（それでも十分に驚いていたが）

さらに魔法の勉強をし続けていたらまた会えるのだからあんまり寂しあはない。

中学校の担任と卒業式で別れるような感じだろうか。会いに行けば会えると。

五歳といえば、外出できるようになります。（ダニエル父さん付き）

外にでて市場に行つたときなんか「異世界に来た」つてことを強烈に実感させられた。

頭でわかつても体は拒否つてたのかな？

そこで出会つたこの世界での始めての友達、アレン・アルタイル。男性五歳。

知り合つた理由はアレン君の父親、ガウディー・アルタイルさんはダニエル父さんと旧知の仲だった。

親が親なら、子も子でどうののか、友達になるのにそう時間はかかるなかつた。

基本聞き手に回ることが多い私だから勝手に喋つてくれるのはありがたい。

馬鹿だが……。

分からぬものはとりあえずたつ切れればいいといつ豪快な考え方である。

考えていないともいえるな。うん。

まあ それはそれでして 閑話休題。

「これでまた妄想を現実化させることが出来るかな？」

重力系に関して、実現させてみたい妄想は今のところ一つぐらいある。
けど、

「火属性はあるのに爆発がないんだもんなあ」

そう、火を魔術で作り出す事は出来た。

けど、魔法そのもので爆発を引き起こすとは考えなかつたらしい。

これがないと二つひとつはまだ実現不可。

やつぱり、自分で創るしかないか。
オリジナル

……ひとつ、

「Hリック様、訓練の時間でござります」

背後から声をかけられるなんともう慣れたものですよ。

五年前、両親に内緒でアンナさんに頼んだこと。

漫画でも良くて出来る脳の訓練を手伝つてもうつてこな。

「はい、わかりました」

そうして今日も、魔術の勉強部屋の地下室から出て朝日を浴びる。

今日の朝食はなんだらつかと考えながら。

内緒にしている意味はないけどね？

専属メイドと家庭教師を得た五年後（後書き）

はい、魔術に結構関わってきました。

すでに魔術の構想は練り終わっています。

一気に説明するのもあれなので少しづつ出してこいつかと。

詠唱考えるときは顔真っ赤。

総合評価が一行を超えた。

ありがとうございます。

こういう気持ちは忘れてくださいですね。

朝食までの道のりも訓練（前書き）

脳みそに関して少し触れていてます。

独学なので曲解があるやもしませんが、ご了承願います。

朝食までの道のりも訓練

右脳

脳みその右側であり、直感、創造性、つまりはイメージや音楽についての働きを主としており、

つまりは感覚を司っている。

この右脳は幼少の頃までは左脳の論理的思考よりも優勢である。

が学校教育で言葉や計算、論理的思考を習うにつれ次第に左脳が優勢になつていいく。

もちろん左脳は大事だが、右脳だつて必要だ。

なら幼少の頃から自我の確立ができるためには論理的思考をしてい
る。希望は、右脳を鍛えるとどうなつてしまふのだろうか？

私は今、自分の家の廊下で田隠しをされてメイドさんの後ろを歩いている。
もちろん足音なんて一人分。

一応、田隠していい いう訳は一つしかないけど重要であつたりもある。

といふか私が頼んだ」との一ツである。
訓練

空間認識能力または空間把握能力なんて聞いたことは無いだろ？

物質、物体が現実にある状態。
三次元空間

その物体の位置や情報をすばやく正確に知覚することである。

ぶつちやけて言えば遠近感が良くなることでもことと思つ。

この能力は一次元的、つまり地図などの紙に書いてある物体を三次元的に頭の中で展開するのに必要な能力である。

他にも、危険な物体飛んでくるボールをつかんだり避けたりする行動、コレも空間認識能力にあたる。

もちろん、あたらなければ避けなくとも良い。

狙つた所に何かを当てる行動も空間認識能力が必要になる。

私の感覚で説明すれば、現実に対する認識力を上げる訓練である。

そのトレーニング方法は目を閉じることだ。

普段何気ない行動を、目を閉じて行つと、空間認識能力は活発に活動し、トレーニングになる。

この能力は右脳によつてコントロールされており、人間の構造上、女性より男性のほうが能力が高いとされている。

男性に生まれた一つの利点かもね。

コレもまた私がこの世界で実現させたいことの一の下準備。妄想

完全に趣味だけ自衛になるしね。

武器

五歳になるまで絶対に家から出れない。

コレだけでアースの日本みたいに治安が良いわけではないと断言できそうだ。

全部の家がそういうわけじゃないと想つけど貴族の息子とこつ立場なら仕方ないのかもしれない。

「着きました」

「正解で」「やれ」ます。では朝食です」

田隠しをといて扉を開ける。

……珍しげダーハル父さんとその後ろに控えている専属執事のハラードさんがいた。

ちょっとばかり大切なお話があるみたいだ。

「おはようHリック」

「おはようハリエット。父さん」

コックが料理を運んでくる。

朝からパスタですか。しかもすこし油つけて。

見た目はペペロンチーノかな？

「食事が終わったら少し大切な話がある」

「わかりました」

この世界では食物に感謝をするという概念がないのか、食事前の挨拶みたいなものがない。

フォークとナイフを逆の手で持ち、心のなかで頂きますと唱えて食べ始めた。

やつぱり油っぽい。

- -

食事が一息ついて、

「ヒリック。誕生日おめでとう」

私は自分で朝、今日は誕生日だと思っていたのにすっかり忘れていた。

でも、これが大切な話かな？

「ありがとうございます」

「昨日、母ちゃんと話し合ってな？ヒリック、お前をヘルムート学園初等部に編入させることにした。出発してもいいのは明日だ」

「……………ナリ母ちゃんと？」

なんとか一応、言葉を搾り出した。

ふう。

……………そりですかサプライズですか全く。

学校はいい。いや、良くはない。なんで出発が明日？

なんで今までずっと黙っていたのか。

そんなものはわかりきつてる。理由両親だからだ。

……いや、ちょっと待って！準備とか何！？どうするの…

うわ、むつむつやあー、ヤーヤしてんよー！

ヘルルドとも表面上何もリアクションをしていないが、内心笑つてこることに違いない。

アンナさんは じゃなくて！

「ああ、カラなら心配ない。、また少し悲しくなってきたみたいでな？会えないので残念だと言つていた。四年後楽しみにしていると
も言つていたぞ」

あーーそれでもないーーひとつが今年も会えないのか。普通立場が逆だらう。アリビ。

ん？四年後ってことは学校四年間しかないのか。

いや初等部とか言つてたし高等学校とかもあるのだろう。

けど、一応長期休暇とかあるはずだし厳密に四年後に余裕つてことはなさそうだ。

嬉しいけど、多分また学校の中で最高級の～とかなんだろ？なあ。

確かに酷い学校とかには行きたくないけれども、毎回毎回一番！なんて一番のありがたみが薄れると言つた、少し勿体無い気がする。

贅沢な悩みだけどね。

……ん？おかしくないか？なんで私の誕生日のすぐ後に学校に入学するんだ？

「ダニエル父さん、明日って学校の入学式なんですか？」

「いやいや、セレブじゃない。入学式は半巡り前だ。だが問題はない。お前は八歳になつたんだからな」

それ全く理由になつてないよ！

つまりは編入したことか。とにかくとは……

「一年早く入学させたといひますか？」

「つむ、ちすがエリック。ちゃんと理解してゐるな」

つまり、満八歳で入学するのではなく満七歳で入学するとこいつと。

父さんも無茶するなあ。

「編入試験があるはずだがお前なら問題ないはずだ。なにせ五歳で

四原則魔法を使うことができたんだからな。学校で思ひつけないで
してきなさい。あんな地下室なんかでやらないで

うわー、父さんの気遣いが痛い。

いつかはバレると思っていたけど結構早かった。

うーん、秘密地下室が秘密でなくなつたのはちょっと痛いかな。

あの地下室は基本四原則魔法でつくった_{親は知らぬ地下室}想作品だつたりする。

自分の部屋が一階だつたし、床の一部分をぶち抜いて結構大きめの地下室を作つた。

問題はどうやって土を掘り起こすかだつたけど、掘りだすのではなく、地魔法で土を押し固めて空間を少しずつ作り出していった。 固めた土は壁代わりにして無駄が出ないよつ。

家が倒壊しても困るからそこそこでやめたけど。

まあ、それはそれとして。

開話休題

「ありがとうござります」

ちやんとお礼は忘れずにおつておかないとな?

朝食までの道のりも訓練（後書き）

武器に関して伏線を2つほど張りせて頂きました。
すでにお気づきな読者様もいるかと思います。

だけどその武器の一番複雑で一番必要な部分がまだ残っていますね。
どーするかって複雑にしなきゃいいんですよ。

それでは次話で。

別視点はまだまだ書いてません書けません。

もう一つの大変なメイドさんとの訓練（前書き）

今度は記憶に関して書いております。

これもまた独学ですので一切責任は取りません。

もう一つの大重要なメイドさんの訓練

記憶

記憶に関する事で重要なのが「海馬」と呼ばれる脳の一部である。

この海馬は目や耳など人体から入ってくる情報を一時的に記憶する。その後、記憶を分類する器官と言われている。

記憶には短期記憶、中期記憶、長期記憶があり、完全記憶能力といふのはこの前者二つを強制的に長期記憶に保存することだとされている。

脳の神経はシナプスという管が通りており、それが脳神経同士を繋いでいる。

その数が多くほど脳の能力は高くなっていく。

海馬は鍛えたら鍛えたぶんだけ脳細胞とシナプスが多くなる。

が、幼少期3～5歳までに脳の能力は、ほぼ決まってしまうと言わっている。

さて、私が入学するヘルムート学園だけ、ダニエル父さんの出身校でもある。

結構優秀な成績で卒業しているけど、同じくやんちゃもやつていたらしい。

その二つは比べるものじゃないと思うけど。

サプライズ好きのダニエル父さんらしい。
悪戯

満七歳で入学
こんな無茶が通ったのは卒業者だからなのか、貴族だからなのか…

…どちらもか。

学校の話を聞くと

- ・成績は単位制
- ・寮ぐらし
- ・ストレートの卒業者は全体の半分
- ・留年は一年まで
- ・入学者は結構多く、中流家庭の下でも金銭的には十分に入学可能
- ・特別入学枠があり、その場合金銭面で負担はゼロ
- しかし条件は結構難しく、八歳以下で四原則魔法（火、水、風、地）の全てを簡単に扱える。
- または、上位三原則魔法（雷、重力、治癒）のどれか一つ扱える。また後者の方が多く、前者はまだ一桁であるらしい。
- さらに重力魔法は、最上位一原則魔法（光、闇）をも上回る発動し難い魔術として知られている。

私は五歳でコレを満たしているから驚かれるのは無理ないね。

- ・図書館の蔵書保有率は五本の指に入る
- ・魔法学校には魔法を使いややすくする特殊な魔法フィールドを持っている（正確には魔法フィールドの近くに学校を建てるらしい）

私は特別入学枠を使って四原則魔法を披露することになるらしい。
ちやんとお金は払つたこと。

「学校の説明はコレぐらいだな。では誕生日プレゼントだ。受け取りなさい」

「え？」

魔法学校入学
コレが誕生日プレゼントじゃないの？

と、思つていたら一つの間にか青白く光つている金属塊を持つてい
るヘラルドさんが横にいた。

銀にしては自己主張が激しいな。

と二つかいつの間に私の横に……。さすがは専属執事。

「魔力との融和性が高いミスリル金属だ。魔力を流しこんでやると
その魔力の持ち主に応じて形を変える不思議な金属。要はイメージ
だな。固まつた時の硬度はそこらの金属じゃ歯がたたない代物だぞ。
四年間の誕生日プレゼントでもある。剣にするなり、盾にするなり、
自由に使ってくれ」

「…………」

一度目のサプライズですかそーですか。

少し落ち着いてミスリルについて考えよつ。

ijiでは魔力を流し込むと形を変える金属。

それは剣に盾に形を変えることが可能。

イメージでいいのなら流体状態で止めておへじ也可能っぽい。

訓練しなくても自在に鞭を操ることが可能って考えてもいいかも。

まあ簡単にすると魔法版形状記憶合金という感じなのかな。

そして、また出たよ四年間。

両親は私が学校に行つたら休暇の時にも帰つて来ないと思つているらしい。

そして一番の問題。

「このじとを学校入学と同時に持つてくるところ」。

私は今すぐ「でも」のミスリルを研究・実験してみたい。

つまり、私の性格を知りながら「じと」渡していくと「じと」、それは学校に持つていけと言っているのと同じ。

盗難の可能性考えてる?

絶対コレ高いよね?

ええ、愚痴だつて言いたくなりますが。考えたくなりますよ。こんなサプライズなんて予想できないし、知っていても飛び込んでしまう。

本田一 度田のニヤニヤ顔の父さんは御満悦のようだ。

だから今はやることまだない。

妄想を現実にするために足りなかつた重要なピースが埋まつたのだ。

魔力との融和性が良く、硬度も高い。なら後、必要なのは「」の知識と妄想のみ!

「ありがとうございます!」

椅子から立ち上がり最敬礼よりも深い礼をした。

私はもう失敗しない。

「コノを力に、生き得るために、変えてみせる。

私は今とても忙しい。

ダーハル父さんから確かに素晴らしい物をもらつたし気遣いもしてもらつたけど……。

「明日の早朝に出発なんてやっぱり無茶だ！」

「愚痴を言つ前に準備を速くしてください。それとも今日の分の訓練はやつぱりやめにします？それなら時間も取れると思いますけど」

「これから四年間はアンナさんと訓練できないんだからそんなことは言えないよ」

色々と準備が必要でビリにもならない。

またアンナさんと訓練ができなくなる。

2つとももう五年間も続けてきている事だ。もはや毎日の習慣。

水で顔を洗つよつた当たり前。

訓練は継続なり、継続は力なり。

元々、そこまで結構なハードスケジュールを組んでいたわけじゃないけど準備に時間が取られることは予想できる。

父さん、サプライズに対するこいつの労力を少しあ考えてください。

お昼で一旦休憩を取りまた再開したものの、結局は夕方までかかってしまった。

「では今日の訓練を始めます」

「はい」

2つ目の訓練は結構単純。

紙に書いてある点を数えて声に出しているだけ。

ただし、一秒以内にその紙は変わっていく。

これはフラッシュ・カードと呼ばれる訓練法でこれも主に右脳を鍛えるものである。

能力で言えば瞬間記憶能力や瞬間判断能力を高めることになるだろうか。

この訓練は特に脳が周りの環境に応じて脳のネットワークが発達しやすい3～4歳の時にこの方法で、脳の細胞を活性化をせるようになるとより高い効果を發揮する。

私はこの訓練法を中学2年生の時に知ったもので特に完全記憶能力に憧れている時でもあった。

そしてこの年齢によくある特有の病を患わっていた。

中一病である。

そして中一病特有なのか、異様なまでの集中力を發揮し、これを習慣付け、結局は転生する事になった事故の田までずっとやり続けていた。

瞬間記憶能力とまでは行かなくても効果を実感するほどに記憶力は

良くなり、判断も早くなつた。

そう、あの事故で横に避けることは無理と判断できたのはこの訓練をしてからだと思つ。

だけど、三歳からやり始めたからなのか、効果の程が段違いだつた。その効果といえば……自分が集中した時、つまり「これを見えたい」と思ったときに見たものは忘れないようになつた。

完全記憶能力とはいかなくても、擬似瞬間記憶能力と読んでいいと思つ。

判断能力はどうなつてゐるのかわからないけど多分良くなつてゐるとは思つ。

まあ結局は測れるものじゃないしね。

八歳になつても辞めるつもりはなかつたけど、能力としては十分な領域に入つてゐると思つし一旦休憩といつことだ。

ここからは四年間魔法だけにつき込むことになると思つし、事実そうなるだろつ。

だから今日の訓練は潰したくはなかつた。

「はい、今日の訓練も終了です。お疲れ様でした」

「あつがとうございました」

「それでは今田まじっかりと体を休めてください」

「はい」

「部屋の掃除は任せくださいね。四年後に帰ってきた時もこの状態を維持しておきますから」

「アンナさんも四年間ずっと帰つてこなこと思つてゐる?..」

「もちろんですとも。ヒック様ですか。自分でも四年間、私と訓練できないなんて言つましたしね?」

「どうやら私は本当に四年間家に帰つていられないらしい。」

もう一つの大重要なメイドさんとの訓練（後書き）

訓練はやつぱり地味であるべきなんです。

でも、この小説はかなり戦闘描写は少ないか短いかです。

魔法系統は基本これで全て出来ました。

後はオリジナルですね。

めだ ボックスのあるセリフを借りますと、

伝統的に評判の悪い、修行パートなんてのを地道にやつてる

つてことになりますかねこの小説は。

心に結構ダメージ受けましたけど作風は変えないつもりです。

魔法に関わり続けました（前書き）

魔術の詠唱ってやっぱり恥ずかしいものですね。

魔法に関わり続けました

筋肉痛

トレーニングには付き物とされている筋肉痛。

筋肉痛になる理由は幾つかあるが、私は「筋肉が回復しているときに出る痛み」として認識している。

そして、筋肉の回復は筋肉の質を高めるものもある。

詳しく述べると、傷ついたことによって回復するとき、筋肉の纖維同士がより強く結びつくのだ。

そして、筋肉痛はその体に対して弱い運動であれば比較的早く出で、強い運動では遅く出るらしい。

「気高き強固な地の意思よ その身を現世に映し出せ」

小石が私の手元から足元に落ちて転がった。

「はい、地属性魔法も問題ありませんね。それではこれで編入試験を終わります。結果は合格ですので授業は明日から受けてください。では、これから寮に案内しますね」

「わかりました。よろしくお願ひします」

編入試験の特別試験が終わつたけど、……体が非常にだるい。

馬車や船やを乗り継いで五日間。

衝撃吸収装置とかまだまだ開発されていない乗り物と、整備されていない道のコラボレーションとか……あれはかなり体に負担をかける。

馬車でも船でも揺れが酷く、ミスリルを調べられる環境じゃなかつた。

衝撃吸収装置や素材は私が開発してやろうついと本気で考えたけど、作るのなら自分だけの馬車を持った時に作つて載せるだけになると思つ。

この技術も悪用される可能性は十分にあるしね。

技術発展は私がやらなくてもこいつが良くなつてこくと思つし、万能な魔法あるし。

とか考えてたら寮と思われる建物まで来た。

見た目はアースの一昔前の校舎みたいだ。

木造で結構雰囲気がいい。

そして、私の部屋に案内されると、本来一つあるはずのベッドが一つしかなかつた。

考えてみれば当たり前で、こんな時期に入学してくる人なんてそういうないし、奇数人数部屋を作つたりして、生徒に余りが出ないよつに振り分けされているのだろう。

そして私が入学してきたから私が余つたと。

貴族だからだとそんな理由じゃないことを祈るばかりだ。

「（）がエリックさんの部屋になります。明日、あなたを受け持つ先生が迎えに来ますから」

「そうですか、案内ありがと（）やこます」

「では、ヘルムート学園で頑張つてくださいね」

笑顔を浮かべながら案内の人気が帰つていく。

部屋は二人用に作られていたのだろうけど、自分の部屋と比べて同じくらいだ。

まあ本当は比べちゃいけないんだら（）……。

階層は一階で、楽だと思ったんだけど、一番端なので結構遠い。

正規の道で学校まで歩いて行くのは（）しばかり面倒そうだ。

まあ何はともあれ、今日はこの疲れた体を布団で癒すとしましょうか。

次の日、だらう多分。

ガラスなんてこの世界では高級品であり、一般的の寮になんてついてはおらず、したがつて窓はない。

そんな訳で朝日なんて部屋に通るわけない。

が、体に覚え込ませた起床時間になるとエリックは目を覚ました。

しかし、目を覚ました時、エリックは体の異変に陥っていた。

(体が全く動かせない……金縛り！？)

体は全く動かすことを聞かず、寝返りや指の先さえも動かすことができない。

金縛り。それは俗に言ひ脳が目覚めて体が目覚めていない状態である。

(これ絶対まずいよね)

私がここにいることはまだ先生ぐらいしか知らない。

したがって^{ミベリル}盗難の可能性はかなり少ない。

だけどやつぱり不安なわけでして。ええ。

移動中、私自身澄ました顔をして内心どんどん焦っていたか。

そもそも澄ました顔ができていたのか。

……駄目だ、思考が空回りしている。

とその時、私にとって今一番、聞きたくない扉が開く嫌な音が響いてきた。

(ノックなしですか!)

よし、シッコニのキレは悪くはない。少しは冷静になつたか。

というか、鍵は?かけ忘れてた?というか私は部屋の鍵の確認をしたか?

疲れはててさつと寝て、部屋をあまり見ることなく昨日終了した
気がある。

と言つた絶対そうだコレ。

これからどうする?体全く動かせないからか、私に気がつくこともなく、私からも侵入者が見えないからすっごく不安だ。

えーと…

「どうやら様ですか！」

おお、声出せた。金縛りが解けてきたかな？

とこつかどうやら様つて……。

侵入者に對して丁寧語ですか。

とかそんなこと考へてたら人の氣配がない。

逃げたかな？まあびっくりするよな。当たり前か。

とこつかようと待て、扉開きっぱなしとかそんなそんなど……
あるよね？

体よ動け！

痛い！！

え？痛い？まつて、コレ金縛りじゃなくて……

筋肉痛？

えーと、確かに五日間ガタガタと体を揺らされてたけどそれだけで筋肉痛ですか？

しかも五日間の後半に筋肉痛が出なかつたと言ひjとは、筋肉痛が^{四十八時間以内}出るまでに時間がかかつたということ。

移動だけでこjまでの筋肉痛が来るといjことは、筋肉はかなり老化しているといjこと。

いやいや、老化はないでしょ。通常より筋力が低いとか弱いとかにしておjうよ。

でも考えてみたら当たり前だ。

市場に何度もアレンくんに会いに行つたぐらいでほとんど体を動かすことなんてやつていない。

ほぼ完璧なる引きこjもり。

血室警備員

……確かに今日が何日だとかお金の価値観とか全くわからないし！

ミスリルだつて本当はどんだけ高いのかわからないし！

これはガチだ。ガチの引きこjもりだ。

これは本格的にまずくないか？

こんなので学校での寮生活やつていけるの！？

時間が解決してくれることを祈ろう。真摯に願おう。

うん、でこの動かない体は結局どうすればいいのだろうか。

…………魔術があるじゃないか。

えっと。

「天から命ぜられし聖の意思よ 清らかなる大地に満ちるその力
盾となりて蝕む悪しき者から守護し 羽衣になりて抱擁せよ」

ふう、なんで治癒魔法になると初級魔法で四小節もあるのやア。

口を動かすのも億劫だったといつのこと。今はもう大丈夫そうだけど。

まあ初級魔法だからか体の節々はまだ少し痛いが起き上がりれないほ

“じじやない。

とりあえず、扉を閉めてから顔でも洗おうかと考えていたら
五歳まで家庭教師をしてもらっていたコアンさんがそこにいた。

魔法に関わり続けました（後書き）

別視点の話を書いた時、その時間帯に合わせるために、割り込みをしてみようかと考えています。

家庭教師と貴族の息子の再会は学校の教師と編入生徒といつ立ち場で（前書き）

少し遅れちゃいました。

誤字脱字、改行のし忘れなどの確認作業をしていないので、もしあつたらバンバン言っちゃってください。

治癒魔法

肉体に関する魔法。

この世界では上位三原則魔法に分けられている魔法の一つ。

本にはこの魔法で、人間の体が治療できることについて当たり前に
ように書かれていた。

つまり、どうやって、どうこうふつに治療しているのか不明。

この魔法は「自分の体の細胞が活性化するような感じ」にイメージ
すると成功しやすい。

が、この世界は魔法が万能なため、身体についての研究はアースに
比べたら天と地の差があるだろう。

つまり細胞といふ言葉すらないかもしれない。

イメージは一人ひとり違うが、この世界の住人はどうやってイメー
ジしているのか少し興味がある。

練習は不定期で、私が何らかの傷を負ったときにやる必要があった。

失敗回数は不明。

三歳半の頃に軽い怪我をしたのでそこから思い立ち、上位三原則魔

法の本をアンナさんに買ってもらい練習開始。

六歳の半ばぐらいで習得した。

筋肉痛を治すことに使える。

が、筋肉痛を治癒魔法で治したためか筋肉の超回復の効果が薄いと思われる。

検証は正確な実験結果を得られないと思われるので割合ある。

三年前まで私の家庭教師をやっていたコアンさんは扉の前でなんとも形容しがたい顔をしてつたつていた。

……まさか、治癒魔法を見られてた？

うーん、見られても問題ないかな？

いや、どうなんだろ？

八歳 上位三原則魔法
この年で治癒魔法が使えるのは一応この学校に特別入学できるべからうの珍しさだ。

片方だけ条件をクリアしてもおかしくはない。珍しいだけですむかもしない。

なら両方の条件をクリアしている場合はどれだけの珍しさになるのだろう。

片方は五歳で出来てるのはコアンさんも知っているけど……。

「…………」
学園だから言葉遣いも崩させてもらひつじ先生と生徒の立場でエリックくんと呼ばせてもらひつけど、治癒魔法を習得したのかい？

「え……、ええ、コアンさんが家庭教師をやめた後でも鍛錬は欠かしたことはありませんから」

「いつたい、そんなに勉強して何をやりたいんだい？」

「いえ、勉強するのが当たり前だと思っているだけですよ」

「へーえ、もつと子供らしくしたらいいと思うんだけどな。貴族の子供という立場からくる重圧があるから仕方ないとは思つねど」

スマセン嘘です。勉強嫌いです。ただ魔法が楽しいだけです。

ゲームみたいに練習したら自分に力が付いていくという事がたのしかったからなんです。

ただ妄想を実現化していただけなんです。

アースでの学校で何に使つかわらないようなものを勉強するより何十倍もマシだったからです。ええ。

やつぱり田に見える変化つていつのは原動力にならやすこよね！

つと、とつあえず、

「えつと、先生がここに来たといつとはそう考へていいんですね？」

「ああ、説明があつたんだね。そう、僕がエリックくんの担当だ。君が入学するつて聞いて担当するクラスに入れてもらつたんだ」

「また会えるというのは教師だったからでしたか。とこいつとはここに入学する」とはもう決定していたわけですね

「まあそうだね。まさか半巡り（半年）ほど早く入学するとは思つてなかつたけどさ、ダニール様も無茶するね？」

「まあダニール父さんですから」

ん？ そこえれば父さんつてびつやつて地下室の存在を知つたんだろう……。

聞くの忘れてた。ああ、四年間は謎のままなのか。

ユアンさんが担当しているクラスで、私が振り分けされるクラスに移動中。

クラスにはレベルがあつて、ユアンさんのクラスは上から一番田らしい。

私は特別入学してきましたからそれだけの実力はあると言われた。
四原則魔法が使える

クラス分けの方法は魔力の大きさで決めたんだとか。

進学すると今度は魔力だけではなくその魔法の技術レベルも考えられてクラス分けがされるらしい。

結局、私の魔法について結論から言うと八歳で精霊や神の加護が無い一般エリック人が、上位三原則魔法を制御できている、習得できているといふのは非常に珍しいらしい。

こと魔力の制御といふことに関してはこのまま成長すれば計り知れないとかなんとか。

「その上の最上位」原則魔法を制御、習得できていたらむづ天才とかじやないね。天才の前に異常とか付いちやつんじやないかな？」

「はあ……そんな事になるんですか」

「一原則魔法の制御の難しさは二原則魔法の比じやないからね。発動の難しさだつたらイメージしにくい重力魔法だと言われているけど」

つまり、私は世間一般では異常な天才というわけだ。

天才か……。

自我^{転生}の確立というアドバンテージがあつたにせよ、毎日の努力の結果なんだけどなあ。

そのふた言だけで私の五年間の訓練が片付けられてしまつのはなんともやるせない気持ちになる。

天才とか呼ばれてみたいくついた時もあつたけど、その時の自分が罫に嵌めてやりたくなつてきた。

「エリックくんも十分に天才の域にいるけどね？」

「努力の結果ですよ。ゴアンさんも私の家庭教師をしていたのですからわかりますよね？魔法に対するセンスはそこまで高くはない」と

魔法の使い方の発想はあるけど、魔法や魔力について元々知つてい
発想

たわけではないから加護を持った人たちにはどうしても敵わない面があるだろうし。

「うーん……そうだね。天才だったとしても努力をしないと才能を埋もれさせるだけだからね」

某格闘マンガのムエタイの人も「十歳で神童、十五歳で才子、二十歳すぎればただの人」と言つていたしね。うん。努力は必要だ。

……よし、いじつけ終了。納得した。

それにしても家庭教師は本物の教師だったとは。

ん? ゴアンさんが教師?

「ゴアンさん、私の家庭教師をやつていたときは」の学校での授業はどうしていたんですか?」

そう、このヘルムート学園まで片道五日間かかるのだ。

七田に一回しか家庭教師をしなかつたとはいえ、これではヘルムート学園から家まで往復することすらできない。

「ああ、そのことか。実はちょっと無理矢理にね……」

ああー、遠い田だ。遠い田をしてくる。

「父さん……ですか?」

「まあそうだね。急にダニエル様専属の執事が来て『休暇をとつて

ダニエル様の息子の家庭教師になれ』なんて言われた口にはね……

ヘラルドさん何やつてるの！？

とこりかそんなことを頼める関係を持っている父さんとコアンさん
のつながりつて何！？

「で、無理矢理休暇を取らされて魔法で移動してダニエル様に話を
聞いたり『3歳児に教える』なんて言われてサプライズ以外の何物
でもないと思ったね」

サプライズだね。傍から見たらおけょくつていよいよこじか見えな
いね。それ。

「まさか本気で教えることになるとは思つてもいなかつたけどね…
…それが一番のサプライズだよ」

「ま、まあ一年間の休暇つてことでじつか一つ」

「結果的にはそうだつたからこりんだけじ、その後こりん寝つてき
たときは、ああちょっとね……」

父さん、無茶しそぎです。

前に予想外だと思ってたけど、ここまで壮大に迷惑かけてるなんて
本当に予想外デス。

けど気になるキーワードがあつた。

「魔法で移動つて言つてましたけど、何魔法を使っての移動なんで

すか？」

「重力魔法だね。馬車の重さや馬そのものの重量を減らして移動スピードを速くすることだよ。重力魔法は僕は使えないけど魔法具を使って魔力を流しこむことでどうにかね」

なるほど、発動がしにくく重力魔法は魔法具が一般的ということか。ちなみに魔法具というものは魔力を貯蔵する性質のある石や金属を材料に魔方陣や刻印が書いてあるもので、アクセサリーのような小物のような物もあるらしい。

まだ私は見たことないけど……。

「はい、エリックくんが入るクラスに付いたよ。それじゃみんな年以上だけどそんなことは知らないはずだから気楽にね」

と言つてコアンさんは一足先に入つていった。

この教室に入つたら周りは皆年上でコアンさんも先生と呼ばなきゃいけない。

(さて、魔法学園生活。初等部の四年間、頑張りますか!)

脳内年齢は二十五～六歳だけね。

家庭教師と貴族の息子の再会は学校の教師と編入生徒といつ立ち場で（後書き）

はい。全く進みませんでしたね。

コアンさんとの世間話だけで終わっちゃいました。

口調の変化を付けなきやいけないと思つてはいるんですが上手くいかないです。

出ぬ杭は打たれるのではなく放置される（前書き）

精神年齢はまだ十六～十七歳です。成長したとしても十八歳です。
だってそれ以上の人生を経験を積んでいませんからね。
つまりはまだまだ高校生。

……つてことでいいよね。

出ぬ杭は打たれるのではなく放置される

編入生

それは正規の方法、つまり新入学したのではない生徒の事を言つ。編入生はその生徒の技術や精神などの発達に応じた学年に仕分けされることである。

この場合は魔術に関する発達具合で仕分けされるのだろう。

つまり、この世界の編入生は一^{世界}置かれる存在という認識になる。

わざわざ編入という面倒くさい事をするほどの『生徒』として見られてしまつのだ。

つまり、どうこうことが起るかといつと

関わつてこないのである。

妄想終了。

うん。多分コレが理由だろう。私がぼっちはなつてている理由は。

入学から一週間。

私は誰とも接触がなかつた。

いや、話しかけなかつた私が悪いといえれば悪いんだけど。

……私は友達とずっとこじる」と云は息が詰まる。

ただ適度に関係を持つてているというだけが一番楽で一番妄想がしあすかつた。

そして一番関係が深かつたのは兄さんだつた。

家族だつたからというのもあるかも知れない。

まあそんなことは置いておいて。

そう、友達がないのだ。

妄想をしてている時が多いから必然的に一人でいることが多い私だが、学校に来て友達が一人もできないというのそれはそれで寂しいと

思つ。

普通は誰かが質問しに来る場面じゃないのか、転入生や編入生って
いつのは。

まあ愚痴つていっても仕方ない。

結局はやるいとは変わらない。

私はここに魔術を学びに来たのだから。

よし、問題ない。

さて、今日の授業の始まりである。

熱血先生とか私は嫌いな部類である。

「さて、このことから魔力フィールドで魔術を使えば魔力はどんどん上がります。

ただし魔力量が多くなつただけではダメです。

ちゃんと魔術語を理解して、しっかりとちょうどいい量の魔力を使つて、ちゃんと魔法を使ってくださいね。

では今日の授業はこれで終わりです

と、ちよつと厳しそうな性格をしていそうな女性先生が出ていった瞬間、一気に騒ぎ出すクラスメイト達。

やはりまだまだ子供なんだなあとか考えつつ誰よりも早くクラスから出て寮へ歩いて行く。
八歳

授業の内容はつまらないとは思わないけど、先生がなんか幼い感じと言つか子供を諭すような言葉遣いだからかとっても面倒くさい。

ところよりやる気がどんどん失われていくような気がする。

個人最大魔力量の増大の授業なんて私にとつて重要な情報なのに。

あんな言葉遣いじゃ『魔力フィールドでは魔法に対しても使える魔力量が増えて威力があがる』だけのようにも聞こえる。

間違えて覚えてる人も出でくるんだろうなあ……。

一つの意味で取れるのであればそれは文章として微妙な気がする。

私は文系じゃなくて理系だったからそこまで拘るつもりはないけど。

このヘルムート学園の魔力フィールドは、学校の周りに生い茂つていの密林の奥に泉があるらしく、そこが魔力フィールドとなつているらしい。

その泉に行く道はなく、獸道でさえほとんど無いため迷いやさしいのだが一人として遭難者は出ていない。

授業では先生引率の元、少人数グループで監視されながら魔法訓練するのだとか。

ゴアンさんに話を聞くと、一人で泉へ行き魔法の練習をしようと考
えていた生徒はこう言つていたらしい。

「まつすぐ奥へ歩いていたらと思つたら、いつの間にか学園に付い
ていた」

その後、泉までの道程がない事を生徒達が『ナチューラルクス自然の要塞』と呼ぶよ
うになつたらしい。

だけど、流石に学園側もそれだけでは不安で、生徒が勝手に入り込
まないように対策をしている。

初等部と併設している高等部の授業の一環として十五歳以上の先輩
たちが監視しているのだ。

もし、初等部の学生にすり抜けられてしまった場合、その監視して
いたグループは罰を受けるのだとか。

この学園の敷地内も魔力フィールドに近いお陰で他の場所よりは十
分に大気中の魔力が濃いけどね。

さて、それじゃあ最大魔力量の増大のために……準備してから魔力
フィールドまで隠密行動といきますか。

あ、ダンボールってこの世界にあるのかな？

出ぬ杭は打たれるのではなく放置される（後書き）

ちょっと短くなつてしましました。

さてさてスニーキングの始まりです。
一週間でもう校則を破ろつとする。

不良な高校生ですね。

バツサリカットする予定はありませんが、単調になつてしまふかも。
一般人は気配を隠すとかそんなことはできませんしね。
望は前世では主にマンガやゲームから妄想を膨らましていきます。
この世界にはそれらはありませんが、魔法というファンタジーでファンタスティックな物（？）があるんですから退屈はしないんですね。

中盤りへんの授業の内容はどうでしょう。
もし不評なようならコメントとかしかやつてください。
悩みに悩んで完璧に書きなおしてやりますから。

「れもー 応援密行動？」（前書き）

特にありません。

少し短いぐらいですかね。

「れも」応隱密行動？

スニーキング

スニーキーク（sneak）の進行形でのスニーキング。
スニーキークの意味は「ソソソソするなど。

だから隱密行動でスニーキング。

スニーキング・ミッションで潜入任務。

……英語つてやつぱりめんぢくせー。

追加

ゴム靴などの「れも」をスニーカーなどと書つかば「れも」はスニーキークから
来たらしー。

これは面白い。

でも英語は苦手だ。

「はーはー、ヘルムート学園校舎裏。

「はなせー俺は泉に行つてもうと強い魔法を使つんだー

「はーはー、残念でした。誰かいるへーこの子を今日の見張り担当の先生のところに連れて行つてあげて」

「うーい了解。んじやいくぞ坊主。風魔法を使って追い風を作るのはいいがもう少し効率よくいかないとな?」

「俺はもつと強くなりたいんだ。ちくしょー、もつ一度挑戦してやるからな!」

「でかい魔力で強い魔法を使うことを田指すより、ちゃんと魔法の使い方を勉強したほうが早いと思うんだがなあ

「私は魔力を強くしたほうが早いと思つけどね」

「相変わらずだな。その思考を持ちながら小手先の技術もつまないときてやがる。あーあ、持つている奴は楽でいいねえ」

「ひむせいわね、私より魔力の制御が上手いくせに。わざわざと行って来なさい」

「はーはー」

「ちくしょー、もつ一度挑戦してやるからなあ～」

体格のいい男性が男の子をがっしり捕まえてどこかに運んでいく。
やつぱり考える事は同じか。私もまだまだ子供か。

だけどこの好奇心に背いて生きていくなんて私の人生じゃないね。
さて、一人減ったわけだけど、今日は多分高等部の上級生や実力が高い人を見張り担当にしているはず。

今日の一年目のクラスは魔力フィールドについて勉強したはずだから好奇心が高く、挑戦の精神の塊みたいな子供はすぐに行動に移す。
たとえそれが校則違反だとしても。

だから授業が終わっての放課後、つまり今日は見張りにとつて今日はお客が沢山来るわけだけど……。

しかし、今日の見張りは本当にすごい。

初等部一年目の生徒が相手なら魔法を使つまでもないですか。
半年魔法を学んだ

なら、五年間魔法を学んだ私ならどこまでいけるかな。

だけど今回の作戦としては隠密行動^{スニーキング}。

相手の実力を發揮させないまま突破する技術、方法。

といつわけで早速いきますか。

「今年の一年生は良い子が多いのかしら」

「いやいや、ただ単にここに来る子がないだけだと想つよ

「あ、見回り」苦労様。どうだった?」

「四人捕まえたかな。どの子も張り合いかない」

「いやいや、初等部の一年生に何を期待しているのよ

「ふふ、期待したくなるよ。なにせ一週間前に四原則魔法を使つて特別入学してくる子供がいたんだ」

編入学

「え？ 何それ聞いてない」

「今知ったんだからいいじゃないか。少しは自分で情報収集したほうがいいよ」

「情報収集を趣味にしているあなたに聞いたほうが早いでしょう」

「やれやれ人使いの荒いことで」

「で？ あんたはその子が来ると思つていてるわけだ」

「そうだね、この時期にこの学園に編入学をするなんて普通にどう考えてもおかしい。ならその子供は普通じやない。なら好奇心は大盛だ」

「その微妙に自信満々な所は置いといて。編入学しただけで好奇心が大盛と考えるのはちょっと飛躍しすぎているような……」

「そりでもないと思うけどね。……案外もう抜かれているかもね？」

「え？」

慎重に硬度を落として羽が木々に引っかかる前に変形をせる。

そして一時的に風魔法を強くして落下速度を落とす！

トンツ、と軽い着地音がして私は地面に降り立つた。

ふう。光魔法解除つと。

重力魔法に風魔法、光魔法を三つ同時に使のはやっぱり神経使うなあ。

重力魔法を使って私だけを軽くして、その軽くなつた体を風魔法で運ぶ……予定だった。

だけど、軽くなつたといつてもせいぜい体重を十分の一にする程度。だから一週間かけて自分の魔力を練り込んだミスリルを使つことにした。

鳥聞コンテストをモチーフにして羽を作った。あれには感動せられるね。うん。

羽^{ミスリル}が金属だからそれなりに重いけどかなり薄く作っても壊れることがなかつたから採用した。

お陰で空を飛ぶことに成功。

魔法で風を操ることができるからプロペラみたいなものいらなかつたから作るのは簡単だつた。

もつとも、重力魔法がもつとしつかり使えるならこんな事にはなからなかつたけど。

まだ自分の体重を重くすることもできないし……。

まあだけど、それだけじゃ見つかるから光魔法で自分の周りに光の屈折を起こして迷彩する。

自分の周りに球体みたいな物を貼り、そこに来る光を微妙に屈折させることで自分がいるところは空に見える。

そしてもし、私がいなかつたら見えるのは空。

だから私が見えなくなる。消えたように見える。

でもやつぱり完璧じゃなくてカメレオンの擬態^{している}レベルにしかならぬい。

動くと微妙に不自然になるし。

さうに有効的に使える状況が限られているから多用もできない。

けど遠目からなら十分に効果を發揮するから今回は問題なし。

今回は羽も囲う必要があつたから結構魔力を使つたけど……。

いつかはものを使わず重力魔法と風魔法だけで浮遊魔法の真似事をやつてみたい。

ということで、名も知らない高等部上級生と異世界転生した初等部一年生の勝負はこっちの勝ちということで。

さて、ナチューラルクス自然の要塞に勝負を挑みに行きますか。

「れも一応隠密行動？」（後書き）

はい、書き終わりました。

自分にとつても隠密行動つてこんなんだっけ？と疑問に思いましたが、ここは異世界。

魔法があれば隠密も変わるつてことで。

技術的に、将来的には出来そうなものですが。

妄想がくだらないって？

そんなくだらないことを考えている時もあるわ。

光学迷彩のくだりはただ単に「光魔法での迷彩」と書いた方がいいのか迷いました。

結局だらだら書いちやいましたけどね。

もう少しわかり易くしたかったんですが、まだまだ文章能力が足りないです。

あとこの小説に点数評価してくれた人がいました。

その評価に見合つような小説を書こうと努力等させて頂きます。

頑張ります……。

では次回にまた。

私の生き方は早くも否定されそうですが（前書き）

かなりお話がぶつ飛びます。
結構なご都合主義です。
全ては貴族の力です。

私の生き方は早くも否定されそうですね

ありがた迷惑

人の親切心が迷惑なこと。

例えば、ある場所に行くという目的があり、そのために普段引き受けない種類の仕事などを引き受けたのに他人が親切心で仕事を手伝うとか引き受けるとか言われること。

断つて済めばいいけど有無を言わぬやられる時がある。

今が本当にそうだ。

迷惑なことの上ない。

迷惑だ　ああ迷惑だ　迷惑だ。

……どうしてこうなった。

どうしてこうなった！？

私は天才児として祭り上げられたくはなかったのに…

ナチューラルクス
自然の要塞は突破できた。

とこゝか自然の要塞なんてなかつたといつてもいい。

実験のため普通に泉に向かつて歩いたら普通についた。

拍子抜けもいいところである。

まあこゝまでは問題はない。むしろうれしい誤算でウキウキしていた。

問題はコアン先生という先客がいたということだ。

私の行動は読めていたらしい。

私が魔力フィールドの事を聞いた時から直ぐに行動に移したのだと
か。

つまりは、私の行動が読まれていたということ。

結構悔しい。

だからって……どうしてこうなった！？

時は少し遡つて前日の夜

私はユアン先生に捕まつて泉までの道を監視していたグループと一室で向かい合わせに座つていた。

「はい、とりあえず自己紹介からしましょうか。……はいはいポ力ンとしていないで。先に高等部の方からね」

と、呼ばれたときには迷いがない顔で『チーム代表』を体現している女の子がすっくと立つた。

「私は……えつと？」

「ああ、必要最低限でいいぞ」

「つまり、そちらの方は王族の方でよろしいでしょうか？」

「「…？」」

……思つたことを口に出さないようになつて。頭の中で一旦吟味してから声をだそう。

「ヒリック君、なぜそつだと思つた？」

「えーっと……そつ、たまたまです。彼女が話し始めて詰まって、その理由を知つているかのようにコアン先生が助けたので立場がとても重要な人だと思つたので王族かな……と」

……だから、思つたことを直ぐに口にしないようある必要があるでしうが…！

こんな一拳手一投足から情報を得て鎌をかける八歳なんて見たことも聞いたこともないよ…

ああ、周りの人全員が私を見て絶句している。

この様子じや私を除いた全員が彼女の特別を知つてゐるっぽいね。

……駄目だ、泥沼にはまつていく氣しかしない。

「まあ、そのことせ置いておいて。わざわざ血口紹介しますよ」「アンさん。それは私の仮定を肯定したことになりますよ。もう口を開ぎますけど。

「じゃあ、初めましてでいいかな。私はキャロライン・アルテミス。まことに、どうやつて私達の監視網を逃れたのか聞きたいわね」

「…………。わたくしは精神的にすっごく揺れていたのにもう立て直してゐる。

王族という立場のプレッシャーに耐えて生きていこうとしていることを語りのかもしねない。

かく言う私も貴族という立場なんだけど。

「はいはい質問は後だ。次行こう」

「俺はクラン・ウイスカだ。ようじく

この人が初等部の男の子を運んでいった人。

「クラリイ・エルネス。ようじくお願ひするよ

知的な雰囲気をまとっている//ステリアスっぽい女の子。いや……女性かな。

「アリシア・グローリアです。ようじくお願ひしますね」

少し天然が入つてそうでポワポワしている人。

経験則だけどめつたに怒らない分起こると怖い人と読んだ。

この人は、ここが私にとっても初対面かな。

で、私の番か。

「私はエリック・シルフィールドです。監視網を突破した方法は聞いても答えません」

答えたままた騒がれる。

「いいもん」

「いいの？」

「諦めないから」

いや、諦めてください。お願ひです。

「はい、といひことで今回のチームの罰は留年です」

「え？」

いきなり何を言い出したこの先生は……。

といつか高等部にも顔を出しているのか、この先生は。

「ちょっとまつてくださいよ先生！俺達のチームだけ罰がでかすぎ

じゃないか

「そうです。いつもなら十五日間の森での地獄チームサバイバルとそのための授業遅れを挽回するための補充授業のはずです」

「……私たちはそれだけのことをしてしまったのですか？」

クラリィさんだけじつと先生の次の言葉を待っている。

「そういうわけじゃないよ。君たちはこの学校を卒業していくもおかしくない魔法力と、それを扱えるだけの知識や技術を持っている。だからね」

いや、それだけじゃ罰が重くなる意味が全くわかりませんが。

「つまり、八歳にして自然の要塞ナチュラルクスという魔術的障害を突破することができるほどの素質を持つているエリックくんに魔法を教えてあげて欲しいということだ」

「それは留年でもなんでもないのでは？」

「そうでもないよ。エリックくんが高等部に入学するからね

……。

……。

「あー？」

「ちゅうと何を書つてゐるんですかーー？」

「大丈夫だ。エリックくんなら高等部の座学にもついていけねば
だ」

「何を根拠にー？」

「三歳の時に基本語学を一十日で覚えたじゃないか」

「あー……」

そうだった。それが理由か。

確かに初等部の授業はかつたること想つていいたし、前世は高校生で
幕を閉じたけど……。

「あれから五年も経つたんだ。更に成長していくと考えて高等部へ
らいなら問題ないと思つてゐるよ。魔術的にも座学的にもね」

コアンさん。ダニエル父さんに精神を侵食されていませんかね……。
無茶しちゃうです。

とこりことがあり私は今、高等部のクラスにいる。

もう少しあんなの體を受けているチームのクラスだ。

チームは全員一年生らしい。

それで卒業していくもおかしくない魔法力つてす』ことなんだよ
なあ。

留年の意味は私に勉学を振るつこと二年に進学することが出来ない可能性がある。という意味合いが強く、私が三年生になれるまで進学できないところの意味だそうだ。

単位制どっこつた！

けど……コレが一番の問題。

「ねぇ~本当にどうやつて私達の監視網を突破したのよ。教えてく
れてもいいじゃない」

「おいおい、そんなに問い合わせてやるなつて。昨日だつてさぞやん質問攻めこしただろ?」

「だつて悔しいじゃない。クリコイだつてせつ思ひでしょ?」

「まあそだね。私はキャロが言つたよつて突破方法にも興味はあるけど、これだけキャロとこう魅力的な女性に質問攻めにされて、まだ口を開かないその精神力の方に興味が出てきたね。まるで八歳じゃないみたいだ」

「すいません、もう勘弁して下さご。結構まほろなんです……。

「みなさん、もうそのくらいでやめてあげたほうが……まだエリックくんはこの学校にきて間もないのですから」

「あら、自分がけいい子ぶっちゃって。そういう子の中に入り込んでいく気ね? そつまわせないんだから」

「えつー? 私は……そういうつもりで言つたわけじゃ……」

「だからつてお前の所有物でもないんだぞ。ここは野同士だな……」

「何抜け駆けしそうとこるのよー。エリック君は私のものなんだから!」

「なんで私を取り合つてこるんだろ?」

そして私は誰かの所有物になる氣は全くありません!..

「おーい、授業を始めるぞ。さつたと散れ。そして席付けへ」

私に……心休まる時間はなくなりました。

つまり、妄想する時間が消えました。

ゴアンさん。このお守みみたいな人たちも高等部の入学に関しても私にとつてはありがた迷惑です。

この学園で繋がりができたのは嬉しいことですが。

ところがこんな馬鹿げた事をしないでください。

この異常とも言える特別措置を、学園上層部の人たちにじりりやつて話をつけたんだろうか……。

私はあの場所にいかないという選択肢はないと思うから、ここに編入学した時から田立つてしまふのは決まっていたのかもしれない……。

魔力フィールド

私の生き方は早くも否定されやうです（後書き）

この話は難産でした。

活動報告にも書きましたがどいつもピンとくる文章がスラスラと出でこなかつたので時間がかかりました。

この小説にストックなんてありません。全てが行き当たりばつたりのお話です。

何を書きたいかはその日の時、私の気まぐれで決まります。

そしてごめんなさい。

高等部学生の外見は妄想力の乏しい私には無理です。

語学的に書くのが難しかったからですが。

「艶やかな髪、真紅のような瞳」とかありますながら書くのはまだまだ私にはできない芸当です。

髪型や髪の長さなどはこのあとのお話にとじて重要なファクターでありますのでそれは後々書くかもです。

つまりは外見等はほぼ読者の妄想で補完して頂く形になります。

ではまた次の話で。

四日以内にアップします。

出すぎた杭は打たれないが目立つた杭は打たれてしまう（前書き）

サブタイトルの意味ですか？

深い意味はありません。

長さが実力、太さや柄などが注目でしょうか。

あんまり深く考えないでくれると助かります。

かなり短いです。

まだ次の文章が纏まつていないのでこうなっちゃいました。

人生と麻雀と執筆作業は上手くいかないものですね。

出すぎた杭は打たれないが目立つた杭は打たれてしまう

魔法（1）

アースでは現実に存在しないと考えられている力。

この世界の魔法は大きく分けて効果魔法と具現化魔法に分けられている。

火の魔法で例を出すなら、『熱』という『効果』を槍の先端に『え』ることで熱によるダメージを追加。前衛での攻撃としての魔法。

『火』を『具現化』させてそのまま相手にぶつける後衛砲台としての魔法。

と一分化されている。

しかし、風魔法のように『効果』しか無い魔法もあり、一部の魔法研究者はその分け方は不適切であると考えている。

高等部のクラス分けは実力でのランク分けではない。

とは言え完全なランダムというわけでもなく、特に仲の良い生徒同士は同じにしてあげるような配慮があるとかないとか。

高等部一年生の場合は入学テストや初等部での成績が考慮されて偏りがないようにクラス分けされるらしい。

これは自分のライバルをクラス外で見つけて競い合ひ高みを目指し、クラス内と連携を取るようにするためだとか。

さらに、自分と実力が近しい人とは連携を取りやすい傾向にあるが、差があると難しい。

自分に自信を持つ事は悪いことではないが、行き過ぎると連携する時などは邪魔になりやすい。

これは実力の高い人によく見られる。

つまり、それらを纏める能力を持つ『トップ^{生徒}』を育てるためのクラス分けとも言われている。

そして、仲の良い生徒同士のクラスを同じにする理由は、緊張感を持つ必要がある授業を行つからである。

つまり、魔力フィールドの監視やサバイバルなどである。

この時のチーム編成はクラス内で行う必要があるのでこんな措置がある。

この世界は人間の肉体面は研究が進んでないけど精神面は魔法での重要な部分だからか、かなり研究が進んでいるように思えた。

そして驚いたのがこの世界には初等部と高等部の間が無いということ。

つまり、三年間もの長い休暇がある。

初等部を卒業、基本教育を収めた後、その三年間の間に自分の身の振り方を決めるという目的で作られたのだとか。

このために高等部に来る人は初等部に比べて大分少ない。

が、魔力フィールドの絶対数が少ないために高等部は初等部以上の生徒がいる。

必然的に高等部の大体（というかほぼ全部）が初等部と併設している。

基本教育のためだけにある初等部もあるっぽいけどその場合、魔力フィールドは無い。

まあ、学校の格としてはやはり魔力フィールドがある方が高い。

そして大体の生徒は高等部卒業後に王国騎士団に所属する。

高等部は騎士育成学校と称されているほどだ。

そしてその学校を卒業できたならば箱がつくのも当然。

つまり、騎士団に入れる予定がなくとも我が子を入学させて『高等部卒業』という泊をつけようといふ貴族がいる。

例をだすなら、アースでの高校卒と云う学歴を取りたいといった所だろうか。

だからこそこんな事が起る。

「なぜ初等部の学生がこんな所にいるんですか！」

「どう考へてもおかしいでしょ！」

「納得の行く説明をお願いします」

「そもそも高等部の授業についてこくことが可能なんですか！？」

脳筋とまではいかないけど肉体派や実戦派と呼べる先生が入ってきた瞬間、さすがに八歳を攻めることは出来ず、積もっていた不満は先生に対して爆発した。

うん。言つてこむことばりもつともです。

むじりもつと言つてやつてください。

騒ぎが少し収まつた時を見計らつて苦い顔をしながら先生がおもむろに口を開いた。

「あ～、それに関してだかな？あのコアン先生直々の措置だそうだ。そして先生から伝言も貰つている。」

生徒たち（四人除く）が青ざめながら一気に静かになつた。

その雰囲気の変わり様と言つたらなんと言葉にしたらいいのか分からぬ程だ。

コアン先生って結構有名なだつたりするのかな？

悪い意味でのベクトルだと思つけど……。

ともかく家庭教師の顔と学園での顔のギャップがすごい。

でもこれつて見方によつては私はコアン先生の力に隠れている嫌味な子供とも取れる。

……考えないでおひつ。

「……………と書つていた。わかつたか？」

……伝言、聞き逃しちゃつたか。

まあ私じゃなくこのクラスの人達への伝言だし気にする必要もないかな。

出すぎた杭は打たれないが目立つた杭は打たれてしまつ（後書き）

書き終わりが今です。

いつもなら朝に終わる筆でしたが後半が纏まりきらず、前半を放出する形になりました。

これを書いている時点でもう一時を過ぎていてるわけですが。

次話が早くなるかどうかと聞かれてもわかりません。
まあ、今回のような少なさではないと思します。

それではまた次話で。

言ひ回しへ日本語の美德（前書き）

会話がすこし変と言つてかテンポが悪いです。
どう直したものでしょ。ひ。

言い回しは日本語の美德

魔法（2）

魔法の難度としては大別して初級、中級、上級の三つに分かれており、どんどん詠唱が長くなる。

魔法が失敗する理由の一つが『自分が制御できないほど魔力を魔術語に載せて詠唱する』ことである。

詠唱が長くなることで使う魔力の総量が多くなり、制御できなくなつた時点で魔力そのものが霧散する。

詠唱自体に載せる魔力を変えることで威力を操ることも可能だが、一小節の詠唱に載せれる魔力は限度があり、初級魔法の威力はいずれどこかで頭打ちになる。

この一小節の詠唱に載せれる魔力の幅が広ければ広いほど応用が効きやすい。

そして詠唱後、自分が詠唱した『魔法名』を言つことで魔法に対するイメージが強固になり、失敗にくくなる。

周りから見て同じ魔法でも人によつて違う名前をつけていたりする。

時は放課後

「さて、高等部初めての授業だけど分からなかつたといふつてある？」

場所は高等部女子寮。

「私たちはエリックくんの勉強を一任されている。これから色んな意味で大変だと思つから出来る限り力になるよ。それが私たちのためにもなるしね」

リーダー格
キヤロラインさん、クラリイさん、アリシアさん、三人の部屋。（
知的な女性
ボワボワ天然
高等部はチーム力向上のために同性は同じ部屋に住む）

「なんでもきいちゃつてくださいね～」

女子寮に入り、女性の私室に入り、実力トップチームの女性三人に囲まれている状況。

男子なら夢見るハーレム状態だね！

だけど残念、私の意識は女性である。

だから……たとえどんなに羨ましくても、子供に危険な視線や呪詛をかけないでください…………。

八歳 嫉妬

チーム唯一の男
クランさんとは別行動。

といつかいつもはこの三人で動いているのだとか。

クランさんも嫉妬の対象にはなっているが、お遊び程度のものだつたりする。

半年間で必死に築いた立ち位置といった所なのかな。

チーム人数は四人以上がラインだつたため、キャロラインさんに引張られてそのまま強制的に組んだらしい。

ちなみに、どういった関係なのかは教えてもらえてない。

クランさんのことを話している時でもキャロラインさんはかなり自然体だつた。

良い仲になるかどうかは微妙といった感じである。

……まあ、そんなことは結構、どうでもいい。

開話休題

それより問題は、私がよく考えずに付いていつてしまい、作つてしまつたこの状況。女子寮の部屋 皆でお勉強 この場面。

実際に高等部の授業は初等部より難しくはあったし、先生がハキハキと喋るので進むスピードも早い。

だけど初等部『より』は難しいという程度だったし、魔法に関しての予習がほぼ完璧なために特に理解し難いことがなかつた。

魔法授業の他には数学や歴史などの基本科目授業は初等部の方でほぼ習つ。

高等部は初等部の復讐^レに近い感じであり、騎士育成学校と称され�名前負けしていないうほどに実技と魔法に関する授業が多い。

私はまあその辺は一週間しか勉強出来なかつたわけだけど、擬似完全記憶能力と高校生レベルの論理的思考力で問題なし。
初等部

魔力という摩訶不思議で万能なモノがあるためなのか、数式や物理に関することは全くといっていいほど発展していなかつた。

歴史はまだまだ分からぬことが多いけれど、順次覚えていけば問題ないと思つ。

ちなみにこの国の名前がイルガンド王国とか言ひうる。

今でも自国が日本だと思っている自分にはあまり興味がない。（ 戻れるとは思っていないけれども）

……纏めると、分からぬ所がないのだ。

実技でも、

四原則魔法の火、水、風、地。

上位三原則魔法の雷、重力、治療。

最上位一原則魔法の光と闇。

これらの魔法を五年間の弛まぬ努力で全ての魔法を制御、習得したのだ。（重力に関してはまだまだだけど）

さすがに大規模な攻撃魔法などを地下だらつと街中で使うことは自重した。

まあそのために搦め手などに特化した『嫌がらせの類である攻撃魔法じゃない攻撃魔法』を作つてみたりもしたから、多少の事なら問題ないはず。 じやなくて！

ええい、今は思考を逸らすな。

ああ……、女性三人組が黙り込んだ私を見て微妙な顔してる。

とりあえず今考えるべき事は、ここをどうやって天才児として見られないように突破するかだ。

これ以上の奇異の目が私に向くのは避けたい。

そしてこれを回避するためにはテストで手を抜くだけでは不十分だろ？。

焼け石に水程度の事なのがもしけないけれど、人の印象はずいぶんと違つてくるはずだ。

下手にこれ以上目立つたらコアンセんと話に出ていた『異常な天才』なんて飛び越えそつなレッテルを貼られてもおかしくない。

それは避けたい。それだけは避けたい。目立つていい」とはあるかもしれないけど、私は自由に生きたいのだ。

鎮しづのついた人生なんて自由じゃない。

と、いひ」とで……

「分からぬ所がわかりません」

「まあやつぱりそうなるよね?」

「わたしたちでも分からぬ所があつたりしますもんねえ」

「……」

この言葉なら普通に授業内容が『理解できていない』とも取れる。

どじがどじ聞違つてゐるか分からぬから授業が分からぬのだ。

けど意味を少し皮肉に取つたら『分からぬ所がない』と言つていふよつにもなる。

こんな勉強会をする必要がないと言つてゐることになる。

最後の『分かりません』にある有名な『チジ、反省してます』など同じトーンにしたらわかりやすいかもしない。

日本語を^{基本}母国語にしてくると他の国々の言葉でも言い回し等で苦労しないなあ。

そういう使える場面が多いことは想わないけども……。

とつあえず、今日のところは授業のおわりをして終った。
この勉強タイムもびりこかしないといけないなあ。

言い回しは日本語の美德（後書き）

数式は偉人と呼ばれる人が必要だと思ったから発展したのです。この世界の場合は数式を魔法に変えていろんな分野で発展しています。

小説を書くネタはボツボツあるのに違和感なくつなげていくのは難しいものです。

明日から大学が始まってしまうので更新スピードが多少遅くなるかもしれません。

この小説ですが総合評価が100pt超えてしまいました。

まだまだヌルい文章やテンポが悪い会話文等ができるかもしませんが精進していきますのでどうかよろしくお願ひします。

それではまた次話で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8263y/>

神様的好奇心は人をも殺す

2012年1月10日19時48分発行